

第4回県立大学あり方懇談会議事概要

平成15年8月5日(火) 9:30～12:00

メルパルク岡山

1 出席者

(委員10名、五十音順、敬称略)

会長 鳥越良光、副会長 小嶋光信、池田武彦、大西珠枝、奥津竹彦、小池将文
小橋政彦、武田結幸、西脇宣子、古松紀子

2 会長あいさつ

3 「前回懇談会での委員要求資料について」質疑及び意見

《会長》

どういう教育を提供すべきか、ということについて前回議論したところだが、もう少し議論を深めていただきたい。

[事務局]

資料によって説明

《委員》

(質問①)

学生側からの授業についての満足度を調査したものはないのか。供給側からだけではなく需要側からのデータはないのだろうか。今は選択する学生の方が強くなっている。どういうニーズがあるのかを把握することは必要。北海道大学では1993年から、学生側からの意見を授業に反映していると聞く。

(質問②)

前回、観光分野についての意見があったと聞いているが。また岡山の特徴として情報ハイウェイがあり、情報工学に集中して投資してはどうか。静岡産業大のように民間企業を巻き込むことが必要。産業界を取り込んだような形の学部も認められるはずだ。県立大学はあのようなキャパがあり、遊べるほどの余裕がある。

短大の存在価値については、4年制の方に投資した方が効率がよい。

[事務局]

(質問①について)そういったデータは取っていないのではないかと。学校教育法の改正により評価を受けなくてはいけなくなり、そういった意識は持ちつつあるが、今まで「目安箱」といったものは取り入れているが、学生の要望を聞くといったことについてきちんとしたデータは取っていない。

(質問②について)観光面も含めた地域支援の一例を紹介すると、柵原町が、鉱山跡を利用して低酸素のスポーツ選手向けのトレーニング施設をつくった。これには短大の先生が関わってきており、まだ具体的な話ではないが、柵原町と県立大学とで今、色々と話し合いをしている。

県立大学には、学際的な学部が多い。外部に象徴する学部として、情報工学だけ、と言ってよいものか、ということがある。情報工学だけに集中投資してもよいものか。

《会長》

(質問①について)すぐにすぐというわけにはいかないとしても、調査してもらえたらと思う。供給側の意見が強すぎる。ぜひそういったデータを。

(質問②について)情報工学は存在意義がある、岡山は情報先進県なので伸ばしてみてもどうか、という意見であったと思う。短大については、4年制に移行して更に高度な教育を提供しては、という意見であった。

《委員》(意見)

大学の自己評価は当然取り組まなければならない。できるだけ早く着手してもらい、大学なりのトレーニングが必要。

学生が運営に関われる取り組みは学生のモチベーションを高めるいいアイデアだ。情報工学部については、ソフト面も取り入れられていると思うが、県内の状況を見ると、理工系の知識のみで、経営的な知識が弱いのではないだろうか。そういうものが結びつけられれば、岡山情報ハイウェイを基盤にした、ハードな知識とソフトの感覚を持った人材の育成につながるのではないか。

資料で、吉備国際大の国際関係学系は、文化財修復といったもので、専門分野を持った国際化なので、もう少し一般的な国際交流、異文化交流などを真正面から捉える分野が人文科学系であれば、県として特色となるのではないか。

《委員》(意見)

短大のあり方については、早急に結論出すべきであろう。今の短大の機能を4大に移せないものか。ただ、いきなりではなく、短大は県短という伝統ある学校からのスタートなので、議論を尽くした上で、そういった方向でよいのではないか。

まだまだ学内での意識が低いのではないか。もっと自信持って欲しい。自己評価をプラス評価でもっとしては。でき得れば、学長、3学部長が何を現場で教えているのか、何を教えたいのかを示して欲しい。

《委員》(意見)

国立大学は、法人化で様々な取組をしている。私立大学は理事長の強いリーダーシップにより、特徴を出しやすい。公立大学の存在意義が中途半端である。公立大学も授業料の面での優位性から優秀な人材が集まってはいるが、看護や福祉といった学部は各県とも設けている。看護は実習の都合上、少人数制で行うので私学ではお金がかかる。一方、福祉系は、大人数でも可能なので全国至る所にある。

公立大学は県が財政支援している。必要な人材養成ならば、出費すればよいが、どこにもある学部をつくって、卒業すると生徒が県外に行ってしまうのは……。短大のニーズは明らかに低くなっている。

看護・福祉関係学部は他県以上に多い。これ以上県大として充実させていく必要があるのか。一定の計画の中で短大は廃止していく方向にせざるを得ないと思う。情報分野は県の特徴であり意義があるが、バイオ関係では人材を集めるのが難しいであろう。

《委員》(意見)

今の少子化の時代、大学は淘汰される。どれくらいの危機感をもっているのか。地域の県大としての長期に安定した見通しを持っていないと、パッチワーク状態になる。覚悟が必要。

地方交付税交付金はどんどんカットされるであろうし、教育も聖域ではないと思う。本当に県立大学は必要だというシナリオを書き込んでいけないと、終末を迎えかねない。基本的には、国立大や私立大学のやらないもので公立大としてやるべき分野を探り当てることが必要である。自論としては、マイナーだけでも地域住民に必要な分野でもってメジャーになることである。

この大学のスタンスとしては、生活と福祉と産業関連のソフト工学系の大学がよいのではないか。文系の私立大学は多い。工学関係はお金がかかる。理工系で優秀な人材を養成するのがよい。

経済界の人を派遣して、岡山大学・岡山商科大学でこれからの地域産業、地域経済についての経営特殊講座というものを行っている。しかし、岡大の経済学部でも一番の就職希望先は、行政マンである。行政は、最大の雇用先なのであろう。地域をよくするための地域づくりを土木とは少し違った形の行政工学のような分野は必要だが、どこにもない。

医工学分野は関連産業がたくさんある。しかし実に育っていない分野である。

生物工学分野をいかしたものはどうか。バイオ関連は将来3兆円市場になるだろう。

岡山の特徴から物流工学を分析的に研究するというのはどうか。

岡大と相互協力関係を築いて、岡大は対象範囲は広いが、棲み分けをしつつ将来像を描くべきであろう。

開かれた大学といって色々とメニューを出しているが、「開かれた」とは単に建物を開放するとかいったことではなく地域の役に立つと言うことである。育てた人材が地域の役に立つ事が大切。学生のうち県内生が60～70%を占めるようになってもいいのでは。

思い切って県立高校内に附属高校をつくってみてはどうか。市内5校の中に一クラスだけでもよいから、高大一貫校にしてみても

高大一貫として、地域産業・経済と連携のとれた大学としてはどうか。基本的には半年から一年間のインターンシップを取り入れて実地研修を十分にし、卒業時には完成した人材とする。

《委員》(質問)

岡山大学も法人化へ向けて慌ただしくなっている。今までの棲み分けが消滅する。独立行政法人化後は、旧七帝大と私立大学の数校が拠点となる。地方の国立大学は生き残りをかけないといけない。競争の中で県大はどうなるのか。国立大学は授業料を値上げし、賃金体

系も変化するであろう。

公立大学協会といったものでは、全国的にどういった見通しをたてているのか。

〔事務局〕

県大は国立大学とは少し違い、設置者の判断により、独立行政法人化するかどうか決定できる。選択が可能であり、統一的な見解はない。

《委員》(意見)

公立大学は、グレーゾーンにして「勝手にしなさい」と兵糧攻めにした。残れるところは残りなさい、と。でも優秀な人材を養成していれば潰れないだろう。

《委員》(意見)

県大の財務諸表も見せてもらったが、よくわからない。できれば民間と同じつくりでつくって欲しい。

県大は資源が限られている。これからは弱者の戦略しかない。情報をいかに活用するか。短大はニーズが済んでいる。4年制も的が絞れていない。

《委員》(意見)

県大にデザイン学部があるというのは一つの特徴であり、とてもよい。芸術面というのは人の心を豊かにする。

伝統の工法を学びつつ、それを今の若い人が得意なコンピューターで活かすことができれば。県内の文化財修復などに役立ててもらえたらと思う。

《委員》(意見)

補足で、北大における学生の授業参画の話があったが、岡大でも2～3年前から学生と教員側との合同の大きな委員会を立ち上げて取り組んでいる。

《委員》(意見)

資金をたくさん集めてくるかどうか、といったことも先生の評価基準に入っているのか。高知工科大では、これが当然項目に入っている。3万、5万円でも社会から還元してもらうことは大切である。

《会長》

どういう領域で残るのか、を方向として明確に打ち出すべき。今持っている資源をベースにしつつ何年かけて定めた方向へもっていかないといけない。きちんとしたスタンスがあれば変革できる。

自立型の財政を確立することが大切、補助金や授業料についても検討が必要。

大学の評価ウエイトで10%以下は独自性、公益性で見ても公立大としてのあり方を議論する必要があるのではなかろうか。ウエイトが高いところは充実し、低いところはスクラップし、そのあとに何か新しいものをつくる。短大は、4年制に移行していき、より専門性の高いもの

を目指す。

民間でできるものは民間に任す。今日、結論というわけにはいかない。議論を深めたい。

《委員》(意見)

川崎市で寝たきり老人41人にパワーリハビリという自分で生活できるようにする取組がなされ、31人が自立できるようになった。3,700万円の公費が助かった。

パワーリハビリ学科をぜひつくってはどうか。

《委員》(意見)

経営形態をどうすべきか。財政は県に依存しており、事務職員も3年毎に人事ローテーションで変わってしまう。数年すればいなくなるのでは、自分たちで何とかしなくては、という意識の持ち方が全然違う。学長に権限を持たせ、そのかわり責任も持たせるようにしてはどうか。

5 「県立大学のあり方(開かれた大学)」質疑及び意見

《会長》

今日の議題について事務局から説明を。

[事務局]

資料によって説明

《委員》(意見)

本当に地域の役に立っているのか、費用対効果で見た場合どうか。サテライトをつくったようだが、大学本部の事務員が少なくて困っているのなら、そちらの人員を増やすべき。コアな部分はしっかりつくらないと。

教育と研究が大学の使命だが、研究は大きな大学に任せて、県大は教育＝研究の応用方面に力を注いでどうか。技術開発は大変な金がかかるし、中には研究者のための研究もある。しかし、産業界では応用技術の方が役に立つ。

情報インターネットを使った分野を徹底的にやってはどうか。手間がかからず広範囲に情報発信しながら役に立つのは情報分野である。公開講座についても、総社まで行くのが大変という人もいる。自宅で公開講座が見られるようにしてみてもは。

評価となるとフルメニュー「〇〇はしているのかいないのか」という基準になりがちだが、的を絞ってみてはどうか。

《委員》(意見、質問)

財政面から見て、1,700余人の生徒に対しての出費と思えば安いくらいではなかろうか。理解をしなくてはいけない。いろいろ取り組んでいるが、評価するにはまだ早い。

無理はしないで身の丈にあったことを余力の中ですべき。よくやっていると思う。門戸をよたらと広げる必要はないと思う。

今後やって欲しいのは、公私立高校への出前講座と岡山は公民館活動が盛んなので、公民館講座へ出かけていくこと。

地域貢献活動に学生の姿が見えない。学生ももっと積極的に参加させては。

全スタッフが「何ができるのか」ということのリストアップがいただけたら。それが地域貢献につながるのではないかな。

〔事務局〕

主要な教員の研究内容をリストアップしたものをつくっている。ホームページでの公開も検討中。

《委員》(意見)

地域貢献はようやくフルラインナップが揃ったという感じである。

県大は名前は知っていても場所を知らない人が多い。サテライトキャンパスが誘導路になり、いつか本体の方へも来てもらえたら、と思う。

高校への講師派遣、附属高校の設置については、高大連携は県教委で包括的な取り決めをしている。県大ということでもさらに踏み込んだ高大連携ができれば、県大だからできることができれば、生徒・保護者・県民への貢献になるのではないだろうか。

公開講座をもっと実施して、ネットでも公開してみても。

先生方が嫌々やっていたら貢献にはならない。地域貢献はギブアンドテイクで先生方にもプラスになるものがなければ長続きしない。

《委員》(意見)

高大連携について、県下大学と県教委は提携を結んだが、岡山大学との関係のようには地理的に難しい。高校生が長期休業中に大学へ出向いたり、逆に前出講座なども考えられるが、単発になってしまう。ただし、総合学習としてはありがたく、今後増えていくであろう。

高大連携について思うのは、高校の単位としては認められないが、大学に入学すれば、大学の単位として認められると言うことで、紐をつけているような感じがある。

財政面では、私学でできるものは私学で、というのであれば何もここで収支が合わなくてもいいと思う。県内生を増やすようにといても、岡山県の生徒も他県で教育をしてもらっているという面がある。もう少し懐を深くしていただければと思う。ただし、経済状態など不安定感が増してきて、県内志向が増えているのは顕著な動きである。

《委員》(意見)

学生の親の収入減は目に見えている。多くの学生が奨学金を希望している。

学校法人会計の導入、資金収支の作成は当然のことと思う。減価償却費さえも分からない財務諸表なんていかなものか。

未就職者、フリーターが増加している。大卒はスキルがない。既成の大学はその存在が問われている。目先の数値で就職率だけあげようとしても、本人に働く意志がない。産業も水島工業地帯でどこかの工場が閉鎖すれば岡山の経済は大打撃を受ける。

県としても戦略を考えないといけない。それも中長期的なものと同期的なものを同時に進

行していかないと行けない。

eラーニングについても、名前のうえではあるが、普及していない。

《委員》(意見)

オープンキャンパスというのは知られたいものも知られてしまうという一面がある。ある国立の総合大学は移転をし、本来学校が移ると町もそれにつれて繁栄するものだが、移転先の町がそれについていけず、大学だけが孤立した形で不便になっている状況で、オープンキャンパスでその状況を見て岡大に来た、という生徒がいる。

学生はまず「どこに住みたいのか」で選び、それから偏差値を見て入れる大学を選び、それから学科を選んでいる。

愛知県で、名古屋市の交通の便のよい場所にある大学と、県の端で少し交通の便の悪い所にある大学とがあり、名古屋市の方の大学はかつてはかなり偏差値が低かったのだが、色々努力してだいぶ上昇した。しかし、もう一つの大学と並ぶ状況で、追い越せない。その理由は「伝統」である。

県大は立地も悪く、伝統もないという弱点がある。

《委員》(意見)

友人の子でデザイン学部によい先生がいると聞いて事前に来てみたら、立地条件をみて入学をやめて東京の学校に行ってしまった例がある。

立地条件について、デザイン系は特に、にぎやかな環境でないとファッショナブルにならない。

いかに見られたいものをいかにカバーするものを発信できるか、そして弱みを自覚すかが大事である。

《委員》(意見)

私が理系・工学系の学部を、といった理由は、立地条件から見てアルバイトをしないで済む学生でないと無理という面もある。

《会長》

開かれた大学、というのは身の丈でしないと長続きしない。本業がしっかりとした上で余力の中でやっていってはどうか、ということであった。

いったん設置すると、スクラップできないので、5, 10年経つと意味がなくなることもあるので、見直しを5, 10年ごとに行ってみては。

国立大と県大の役割分担を考えて情報分野に特化しては、という意見もあった。

教育全体として学生も交えて議論し意識を持つことが必要である。

地域貢献できる人をきちんと評価してあげないといけない。

今日の項目は以上であり、結論はまだ出せないなので意見を聞かせていただき最終的なまとめをさせていただけたら、と思う。